

## 2.2.4.2 研究活動

＜2003年度に設定した目標＞

1. 研究活動の活性化
2. 研究成果の発表の推進
3. 科学研究費補助金の獲得
4. 専任教員の研究業績データベースの更新の徹底
5. 大学院生・研究員の研究活動の把握

### 【評価項目 9-2-1】 研究活動

- (必須要素) 論文等研究成果の発表状況
- (選択要素) 国内外の学会での活動状況
- (選択要素) 当該学部として特筆すべき研究分野での研究活動状況
- (選択要素) 研究助成を得て行われる研究プログラムの展開状況

### 【評価項目 9-2-2】 研究における国際連携

- (選択要素) 国際的な共同研究への参加状況
- (選択要素) 海外研究拠点の配置状況

(現状の説明)

関西学院大学業績データベースによれば、文学部・文学研究科に所属する専任教員が、2003～2004年度に発表した著書は47冊（共著・分担執筆を含む）、論文は145篇（査読つき論文を含む）である。また、国内外での学会報告・発表は72件、翻訳・調査報告書・書評・評論・事典・辞典をあわせて36点である（実態はこの数字よりもさらに多いと思われる）。このほかに、学会主催のシンポジウムや各種講演会において研究成果の発表が盛んに行われている。

年度	著書	論文	Web-付論文	学会報告	学術発表	翻訳	調査報告	書評	評論	事典	辞典	講演	招待講演	特許取得	特許出願
2000	16	66	17	1	1	4	3	8	1	2	2	5	4	0	0
2001	28	59	14	18	1	5	1	10	1	0	3	6	3	0	0
2002	28	67	22	25	0	3	3	3	4	2	3	7	3	0	0
2003	29	55	20	34	4	4	3	7	2	1	1	4	9	0	0
2004	18	55	15	34	0	0	0	10	3	1	4	6	6	0	0
計	119	302	88	152	6	16	10	38	11	6	13	28	25	0	0

科学研究費補助金の助成状況は以下の通りである。2002年：申請4件、採択3件、補助金額22,300,000円、2003年：申請12件、採択6件、補助金額21,700,000円、2004年：申請11件、採択2件、補助金額16,300,000円。

海外の研究者と共同研究は、7-0-1「国際交流」の項目に記した海外出張などの折に、教員ごとに行われている。

特筆すべき事例として以下の2点が挙げられる。まず、文学部総合心理科学科および文学研究科では、文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業（学術フロンティア推進事業：2002年度～2006年度）「先端技術による応用心理科学研究」として、国内外の8大学、警察、民間企業3社に所属する研究者と共同研究を行っている。また、文学部文化歴史学科および文学研究科では、文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業（産学連携研究推

進事業：2003年度～2007年度）「江戸時代の小袖に関する復元的研究」において、京都国立博物館および京都市染織試験場と共同研究を行っている。

#### （点検・評価の結果）

文学部・文学研究科の専任教員の研究活動レベルは、出版した書籍数や論文数、学会発表件数の面から判断すれば、総じて高いといえよう。もちろん研究業績は単に論文や発表の数だけで評価できるわけではないが、科学研究費補助金の助成件数の多さや、文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業（学術フロンティア推進事業）、文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業（産学連携研究推進事業）の採択からは、質的な面においても十分な研究活動を行っていると言えるだろう。学問領域や研究テーマによっては容易に成果が現れないものがあることに留意しつつも、研究活動をより活発にするシステムを大学全体および文学部として検討する必要がある。

#### （改善の具体的方策）

研究活動活発化のためには、文学部・文学研究科の専任教員の研究業績を正確に把握することが重要である。昇進などの際に、学部教授会・大学院研究科委員会などで研究業績書が示される場合を除けば、研究業績の把握は上述の関西学院大学業績データベースに拠るが、データ更新作業は順調に行われている。

また、大学院生・研究員の研究活動については、指導教員レベルあるいは専攻レベルでの把握にとどまっており、学位審査の場を除けば、彼らの研究活動を外部から把握することが困難である。専任教員を含めて、研究活動を正確に外部に公開するシステムの構築を目指す。